

(令和2年10月6日発表)

「三島由紀夫と『天人五衰』展」開催

◆ アピールポイント	<p>■ 没後50年を記念し、三保松原が主な舞台となっている絶筆小説『天人五衰』(豊饒の海・第4巻)を中心に、三島由紀夫と静岡市・三保松原の関係を紹介します。</p> <p>■ 11月22日には三島由紀夫関連トークショーを開催します。</p>
◆ 日時・期間	令和2年10月10日(土)～11月29日(日) 9:00～16:30
◆ 場 所	静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」1階展示室内 (静岡市清水区三保 1338-45)
◆ 内容など	<p>■ 写真作品『薔薇刑 作品32』(細江英公撮影)、小説『豊饒の海』初版本、特集雑誌、新聞記事、原稿資料(写真)など三島由紀夫関連資料を展示します。</p> <p style="text-align: right;">所蔵：本阿弥清</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="220 1025 419 1220">  </div> <div data-bbox="475 943 836 1182">  </div> <div data-bbox="863 929 1038 1182">  </div> <div data-bbox="1062 943 1423 1167">  </div> </div> <p>薔薇刑#32,1961 ©写真・細江英公 「天人五衰」1971年(新潮社) 1970年11月26日朝刊 読売新聞、朝日新聞</p>
◆ 関連イベント	<p>● 三島由紀夫関連トークショー 内容：①『三保松原と「豊饒の海」』②『三島由紀夫の世界観』 日時：11/22(日) 13:00～16:00 場所：みほしるべ2階会議室</p> <p>講師：① ^{あんどうれいじ}安藤礼二(多摩美術大学教授)、^{こにたせいじ}小二田誠二(静岡大学教授) ② ^{いのうえたかし}井上隆史(白百合女子大学教授)、^{わたなべしんや}渡辺真也(映画監督)</p> <p>定員：25名(無料、申込順) 申込：電話で市コールセンターへ(200-4894)【10/21(水)より先着順】</p> <p>● 提携上映会『11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』 日時：11/21(土)～11/28(土) 11時、15時、19時 入場料：1,000円、前売券900円 主催：清水映画祭運営委員会 会場：「夢町座」清水駅前銀座</p>

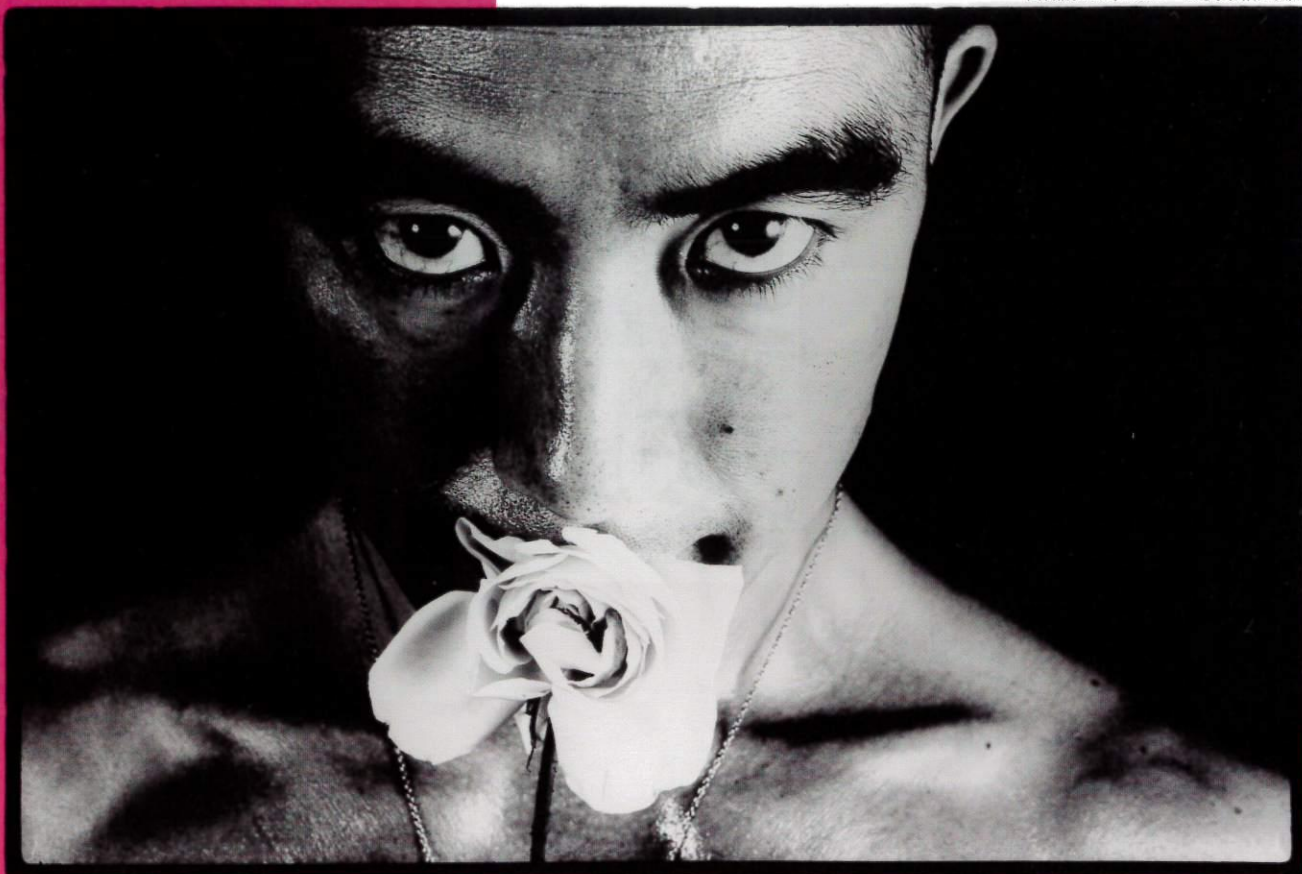
別紙資料 有
ぜひ事前告知・
期間中の取材をお願いします！

【問合せ】文化財課 三保松原文化創造センター
静岡市清水区三保 1338-45
電話 054-340-2100

入場
無料

展示構成

- 三島由紀夫『薔薇刑 作品32』1961年〔写真作品〕
- 三島関連の書籍や三島を特集した雑誌・映画（DVD）など（本阿弥清コレクションより）



三島由紀夫と 天人五衰展

三島由紀夫の絶筆小説『豊饒の海』の第4巻「天人五衰」は、主人公（安永 透）が静岡市（旧由比町）出身で、三保半島も舞台の一つとして描かれています。そして、三島由紀夫の作品『近代能楽集』『英霊の声』『金閣寺』『豊饒の海』などには、能楽の「複式夢幻能」の表現方法が活かされているともいわれています。世界遺産となった「富士山」と能「羽衣」でも有名な構成資産「三保松原」は、三島由紀夫にとっても、重要な意味を持つ場所といえます。

11月25日(2020年)は、三島が遺作『天人五衰』の原稿を担当編集者に渡し、東京の自衛隊市ヶ谷駐屯地で自決した日にあたり今年で丸50年です。ちなみに、2012年に一般公開された映画『11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』（監督:若松孝二）は、静岡市役所本館（設計:中村與資平）のエントランス車寄せ屋上を、市ヶ谷駐屯地のベランダに見立てて撮影が行われました。

2020(令和2)年

10/10[土] → 11/29[日]

開館時間 9:00~16:30

静岡市三保松原文化創造センター《みほしるべ》

主催: 静岡市三保松原文化創造センター

監修: 本阿弥清 (美術評論家連盟会員)

協力: 山中湖文学の森 三島由紀夫文学館・細江英公写真美術研究所・藤田三男編集事務所

無休

三島由紀夫関連トークショー

『三保松原と「豊饒の海」』**無料**

安藤礼二 (多摩美術大学教授)
小二田誠二 (静岡大学教授)

『三島由紀夫の世界観』

井上隆史 (白百合女子大学教授)
渡辺真也 (映画監督)

2020年11月22日(日) 午後1時~4時 (3時間)

会場: 「みほしるべ」会議室 (定員25名) ※要申込

申込みは電話で静岡市コールセンターへ

TEL 054-200-4894 (10/21(水)より先着順)

※新型コロナウイルスの影響により内容を変更する場合があります。イベントの最新情報はみほしるべ公式サイトでご確認ください。

展覧会・提携上映会 **有料**

『11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』

(2012年、119分カラー作品。監督:若松孝二、主演:井浦新)

2020年11月21日(土)~28日(土) 11時、15時、19時 ※1日3回上映

入場料: 1,000円、前売券 900円 主催: 清水映画祭運営委員会

会場: 「夢町座」清水駅前銀座 お問合せ: TEL 054-366-5903



世界文化遺産「富士山」
【三保松原（構成資産）】

〒424-0901

静岡県静岡市清水区三保1338-45

電話/054-340-2100 (9:00~16:30)

開館時間/9:00~16:30

休館日/無休 入場無料

※《みほしるべ》は、世界遺産「富士山」の「三保松原」(羽衣の松)に近接してあります。



みほしるべ

MIHO 静岡市三保松原文化創造センター
SHIRUBE Shizuoka City Miho no Matsubara Culture & Creativity Center



三島由紀夫と天人五衰展



1970年11月26日(朝日) 読売新聞、朝日新聞



三島由紀夫「天人五衰」1971年(新潮社) 初版本



書物の海「天人五衰」原稿-複製(写真) (三島由紀夫文学館所蔵)

《本阿弥 清コレクション》

本阿弥 清は、清水区在住の現代美術の調査・研究に携わる美術評論家で、写真家の細江英公(三島由紀夫を撮影した「薔薇刑」作品で有名)が参加していた「デモクラート美術家協会」メンバーとの交流をきっかけに、1980年代から美術作品の収集をスタートさせている。

2000年からは、NPO法人が運営する美術館である「虹の美術館」の設立と企画運営にかかり、虹の美術館で展示された作品の一部は静岡県立美術館に寄贈されている。

主な展示作品及び資料

- 三島由紀夫「薔薇刑 作品 32」1961年・セラチンシルバープリント(撮影者・細江英公)
- 三島由紀夫自決翌日(1970年11月26日)朝日新聞、読売新聞
- 「豊饒の海」4部作の初版本
- 三島関連の書籍や三島を特集した雑誌(1970年～現在まで)
- 映画「11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち」などのDVDや映画チラシ等

関連トークショーの開催

三島由紀夫にとっての「三保松原」とは、「富士山」とともに日本文化の基盤に位置する大切な場所の一つだったといえる。

三島由紀夫の絶筆小説「豊饒の海」第四巻「天人五衰」とは、いったいどのような小説だったのか? また、ノーベル文学賞候補になっていたとされる三島が、40代の若さで自決した理由とは? 4人の専門家が、文芸評論、文学、思想、美術・映画などの世界から、三島由紀夫について語るトークショー。

<開催日時等は表面をご覧ください>

安藤礼二

文芸評論家。多摩美術大学教授、多摩美術大学芸術人類学研究所所長。著書に「光の曼陀羅-日本文学論」(新口信夫)(講談社)、「列島祝祭論」(作品社)などがある。

小二田誠二

静岡大学教授(日本語文化)。研究対象は江戸明治の表現だが、静岡の歴史・文化・産業についての仕事も多い。著書に「死霊解剖物語聞書」(現代書館)などがある。

井上隆史

白百合女子大学教授(日本近代文学)。三島由紀夫文学館研究員。著書に「三島由紀夫 虚無の光と闇」(誠論社)、「豊饒なる仮面 三島由紀夫」(新泉社)などがある。

渡辺真也

映画監督。キュレーターで美術史博士。テンブル大学講師。映画監督作品に「Soul Odyssey-ユーラシアを探して」。著書に「ユーラシアを探して: ヨーゼフ・ボイスとナムジュン・パイク」(三元社)がある。

展覧会・提携上映会

映画

「11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち」

「11.25 自決の日 三島由紀夫と若者たち」は、2012年に一般公開された映画。監督は若松孝二、主演は井浦新で、他に寺島しのぶ、満島真之介、小倉一郎、篠原勝之などが出演。2012年第65回カンヌ国際映画祭招待作品[ある視点]部門出品。第17回釜山映画祭 アジア映画人賞受賞[若松孝二]。2012年度坂口安吾賞受賞[若松孝二]。



「11.25自決の日」2012年(若松孝二 監督) 若松プロダクション

<開催日時等は表面をご覧ください>



アクセス

- [JR] 静岡駅から清水駅まで車で約18分。清水駅から三保方面行きバス約26分。「三保松原入口」下車、徒歩約15分。
- [特設バス] 新清水駅から三保方面行きバス約20分。「三保松原入口」下車徒歩約16分。
- [車] 清水ICから約25分。静岡ICから約35分。日本平久能山スマートICから約25分。(駐車場173台)



〒424-0901
静岡県静岡市清水区三保1-338-45
電話/054-340-2100(9:00~16:30)
開館時間/9:00~16:30
休館日/祭日 入場無料
E: miho@city.shizuoka.lg.jp
https://miho-no-matsubara.jp/

